進路ニュース

2021年度10月号　No.276

茨城県立土浦湖北高等学校

進　路　指　導　部

後期が始まりました

１０月４日（月）より後期が始まりました。１・２年生にとっては今が１年間の中間地点になりますが、多くの３年生にとっては、これから本格的な受験シーズン突入となります。

３年生においては、先日１２０名分の「大学入学共通テスト」志願票を発送しました。１月の共通テストに備えてしっかり対策をしてください。また、推薦入試校内選考会により、学校推薦型選抜の受験者（大学５１名・短大１０名・専門学校３３名が決定し、受験者は面接や小論文などの対策に取り組み始めています。近年、受験の出願手続きをインターネットで行う学校が増えていることに加え、昨年に引き続き今年も新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインでの面接試験に切り替えるなど、試験方法の急な変更も生じています。受験生者は、情報を確実に入手し不備のないようにしっかり準備してください。更に、就職・公務員希望者は、選考試験が終わり結果が出始めています。公務員試験の２次試験の対策にも力を入れてください。

１・２年生は、５日にスタディーサポート、１１月初めには進研記述模試が行われ、自分の学力を確認することができます。また、２年生は「コース選択」、１年生は「文理選択」の時期になり、本格的に進路研究を進める段階になります。将来を考えることによってこれから学ぶべき方向性が明確になります。科目の苦手意識のような目先のことだけにとらわれるのではなく、しっかりと情報収集をした上で保護者の方・先輩・先生など、周囲の人にも相談しながら検討するようにしましょう。

《１０月の進路関係行事》

16日（土）	土曜課外④（1・2・3年）
23日（土）	河合塾共通テスト模試（3年）
27日（水）～29日（金）	定期考査Ⅲ
30日（土）	公開授業
	中学生保護者対象説明会
11/4（木）	進研模試（１・２年）

☆　学校推薦型選抜について

大学全体の９割以上が実施している、一般選抜に次ぐ規模の選抜方式です。一般選抜との大きな違いは「出身高校長の推薦を受けないと出願できない」という点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」や検定・資格等といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの大学では「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています（近年、他大学との併願が可能な併願制も増えてきています）。推薦入試を考える場合は、出願する上で制約があることと、原則第１志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。

【指定校推薦と公募推薦の違い】

指定校推薦		大学が特定の高校を指定し、出願基準や人数が設定されて実施する入試方式。「合格率が高い」という特徴がある。（近年、準備不足のため不合格となる例が出ている） 勉強や部活動の成績などを評価する。選考は小論文と面接のみの場合が多い。 **＊主に私立大で行われ、自分の在籍する学校が指定校になっていなければ受験できない。**
公募推薦	一般	大学毎の出願資格を満たしており、出身高等学校の校長から推薦された生徒が受験可能。評定平均値に基準があることが多い。選別方法は書類審査の他に面接や学科（能力）試験、面接、小論文などが必要となることが多い。 **＊高校の推薦基準と大学の出願条件を満たしていれば応募できる。国公立大学を含め多くの大学で行われている。**
	特別	スポーツや文化活動における活動・実績などが評価される。評定平均値に基準があることは少ない。

【推薦入試対策ポイント】
〇小論文
・志望校の問題タイプ、出題傾向をチェックしよう。
・できる限り多くの過去問を解き先生方に添削してもらおう。同じ問題でもベストの文章が書けるまで何回か書こう。
・進学希望の学科に関連したテーマ、社会トピックスには関心を持とう。
〇面接
・志望理由は必ず聞かれる。明確に答えられるようにしよう。また、入学後や将来の、自分なりのビジョンを示すことも重要。
・言葉遣いやマナーも大切。模擬面接の練習は限られた回数で設定されているが、不安があれば個人的に先生にお願いしてみよう。
〇書類審査・学力検査
・提出書類は楷書で丁寧に書こう。コピーした紙に下書きをし、先生のチェックを受けてから清書すると安心。
・志望理由書では、その学問を志したきっかけ・その大学を志望する理由・入学後の抱負や将来の希望進路などを明確にかつ具体的に書くこと。必ず先生にお願いし、構成や用語など不明瞭な箇所を指摘してもらおう。

☆　進学情報　～２年目を迎える、大学新入試制度のポイント～

大学入試の方式は2019年まで「AO入試」・「推薦入試」「センター試験」「一般入試」の４つに大別されていたが、2020年の入試から「総合型選抜」・「学校推薦型選抜」・「大学入学共通テスト」・「一般選抜」に名称が変更になった。単に名称が変わっただけではなく、内容も変化している。特に、年内入試の「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」は従来の方式との差異があるため、内容を理解し対応方法を検討する必要がある。

（1）　総合型選抜
今までAO入試と呼ばれた「やる気」と「熱意」を評価する入試。出願・合格発表が遅くなり、かつ今まであまり問われなかった「学力」を問う形式に変更になった点が大きな変更点である。「やる気」や「熱意」を表現するために、志望校の大学案内や模擬授業の内容などをしっかり調べる準備が必須になる。
（2）　学校推薦型選抜
従来の指定校制推薦入試と公募制推薦入試を指す。高校３年間の評定平均値が基準となっており、高校における学習への取り組みを重視する入試制度。指定校制は校内選考を突破する必要があり、公募制は基準クリア後に他校の生徒との勝負となる。合格発表が遅くなり、学力を問われる形に変化している。
（3）　一般選抜
これまでの一般入試と同様に入試の点数が高い人が合格する形。英語の外部検定を採用したものや共通テストを併用したものなど、大学で作成した試験以外を使用する入試も増加している。また、志望理由等を記載させて提出させる大学も出てきている。入試改革に沿ってかなり思い切った変更をしている大学もある。
（4）　大学入学共通テスト
これまでのセンター試験に代わり実施された試験。英語の外部検定採用や国語・数学の記述式問題の導入などが延期となり、マークシート式のみでの実施。しかしながら英語の筆記・リスニング均等配点や理系科目の文章量増、図や資料グラフなどを読み込ませる問題など顕著な変更点が見られる。

【ポイント】
〇　新入試において総合型選抜の合格発表が11月１日以降と大幅に遅くなっていること、学校推薦型選抜も12月１日以降と１ヶ月遅くなったことは大きなポイントである。また、今まで推薦入試と一般入試を並行に考えていた受験生は、推薦の結果を見てから一般へという流れを作っていたが、推薦型選抜の合格発表から一般選抜の試験までの時間がなく、途中からの進路変更が厳しくなった。
〇　以前は、AO入試に象徴される年内入試は高校の活動実績を中心に評価されるのに対して、旧一般入試は学力検査のみで評価されるという方向性の違いがあった。しかし、新入試においては、互いに今まであまり必要とされなかった要素が加わることになり、ともに「学びの３要素」を求められるようになっている。よって、その分野に特化した能力よりも、総合力を重視される方向になったといえる。

（参考：進路企画）